

マラソン講座 算数 7/25

「子どもたちの可能性を拓くスイッチON」と題して倉澤先生の算数実践の講座が行われました。参加者は23名(会場:18名、オンライン:5名)で途中からグループになり、図形や数などの概念をカードゲームで楽しく学びました。悩む姿や「わっ」と歓声上がるグループなどあり、盛り上がる講座となりました。「子どもが変われば、親が変わる」と自らの実践を振り返り報告し、手を動かしながら学習すること、ゲームを通じて学習することの必要性を語ってくれました。



参加者の感想から

- とても勉強になりました。どうしたら子どもたちに理解してもらえるのか…、と思いつつも、日々教科書を教えるだけになっていることが恥ずかしくなりました。様々な教具やグッズを使って子どもたちの理解を深めていけたらいいと思います。夏休みに計画を立ててみます。
- 計算ドリルをするだけより、今日のようなゲームをする方がうんと楽しくて、身につくと思います。カードゲームを5種類やって、頭がフラフラになりました。 綱引きゲームも大勢でやると楽しかったです。夏休み中にタイルを買いに行きます。
- 途中抜け再び参加すると、いろいろなカードゲームをやっていました。グループの皆さんがすぐにやり方を教えてくれたので、すぐに仲間に入ることができました。数直線カードが大人でもちょっと難しかったのですが、カードの中にさりげなくヒントが隠されていることも教えてもらい、楽しくカードゲームができました。ありとあらゆることをカードにしておられたのだなあと感心しながら楽しみました。ありがとうございました。
- 「遊びながら学ぶ」普段の授業ですっかり忘れていました。9月から楽しい授業がしたいです。また、量が視覚的に分かるところがいいと思いました。数をしっかりイメージすることで、計算が機械的な操作だけにならないと思いました。ありがとうございました。
- 楽しすぎました。私の学校で、研修としてこのまま皆に広めてもいいでしょうか？私は5年生なので、ヤクちゃんゲームを必ずやります。今日は手をたくさん動かしたので、頭も動きました！ありがとうございました。
- 子どもの世界に教材を持って入っていく、という発想は大切だなと思った。広島サミットで牛乳パックの表示を200mlではなく、2dlに変えてほしい。
- 自分ゲームは意識すればするほど難しいですね。綱引きゲームはクラスを一体化できて、位取りが頭に入ると改めて感じました。
- ゲームを楽しみながら、何度も大切なことを反復して身につけることができる。五感を使って安心の中で、心のバリアーを解きながら。その学び方のすごさに納得しました。教室のあの子にもあの子にもスイッチがONになる手立てはあるはず。算数サークルの実践に学びたいと思いました。
- 「GIGAスクール構想」が進み、タブレット端末での普及が爆発的に進んでおり、授業のデジタル化実践を多くみるようになりました。経験の少ない私は、そのような画期的と言われる実践はすごいと感じ、マネをするようになりました。しかし、それだけではいけないと思い、今日の講座で強く思いました。自分が感じた手を動かして、楽しく学ぶワクワク感を夏休み明けから子どもたちにも感じてもらうように教材研究を頑張ります！